はなしのたね
hanashi no tane

vol.2

「アポフェニア」のはなし。

オレには何か、他の人にはない特別な力が宿っているのではないか？と思うことがあります。ただ、先に断っておきますが何の役にも立たないことです。スーパーでもどこでもいいんですが、車で買い物に行くと、駐車したとき隣の車に人が乗っている確率が異常なのです。到着したときは誰も乗っていなくても、自分が用を済まして帰ろうとしたときには、隣の車に誰かが乗っている･･･。乗っている人の状態は様々です。奥さんと子供が買い物しているのを待っているお父さんだったり、車の中で食事をしている人だったり、今まさに到着して車を降りようとしている人だったり･･･パターンは色々ですが、まあすんごい確率で誰かが乗っています。誰も乗っていないとホッとするぐらいです。

ということで、これに近いことを感じてみえる方もいらっしゃるかもしれませんが、これがアポフェニアです。特別な力でも何でもありません。ましてやあなたが特別な人間であるわけがありません･･･ってこれはちょっと失礼か。いずれにせよ、こうした出来事はアポフェニアといって、無意味なノイズや偶然の存在を信じてしまう心理的傾向です。偶然の中にはあまりにでき過ぎていて、意味があるとしか思えないことがあります。例えばいつも時計を見ると1時11分とか3時33分だ、とか、コンビニのからあげクンは自分の分がいつも最後の1個だ、とか。でも実際そんなワケがないんです。

「テキサスの名射手の誤謬（ごびゅう）」という言葉があります。テキサスのガンマンが壁に向かって銃を何発も撃ちます。そして穴だらけになった壁の中で、たまたま穴がいくつも集中している範囲を丸で囲って後から的を書き足します。すると後から見た人は、そのガンマンがスゴ腕の名手のように見える、というものです。これがアポフェニアの正体。人間はいくつも起きた偶然の中から共通項や関連性のあるものを勝手にひとまとめにして、あたかも必然や運命のように扱いたがる生き物なのです。そして人間はさらにここに「正常性バイアス」という偏りを付加したがります。これは自分にとって都合の悪い情報を過小評価したり、シャットアウトしたりすることです。また、自分にとって都合のいい話を耳にすると、それを裏付けるような情報ばかり集めてしまうという傾向もあります。これを「確証バイアス」といいます。「自分だけはウイルスに感染しない、若い人は命の危険にさらされることはない」―――これらはすべて、バイアスのかかった人間の弱い心理が生み出した愚かな錯覚です。何の保証もありません。

人間はいま、世界に70億人います。どんな偶然が起きても不思議ではありません。また、人間は平均して1秒に1度、なんらかの事象を経験するといいます。これを計算すると、35日間で100万件の事象を経験することになり、あることが100万にひとつの確率で起こるとすれば、大体一ヶ月に一度はそれが起こることになります。人間は無意味さに耐えられない生き物なので、何かにつけて自分自身の価値や意義を、日々の偶然の中から探し、作る。そしてそれが「自分だけは大丈夫、自分は特別な存在」という過信につながっていくのです。現在のような状況の中では、自分が一番危うい存在であると思って行動してちょうどいいぐらいです。あなたが今 生きていることすら、偶然の一部なのですから。

アタマの体操・脳トレ編

脳を活性化しアンチエイジングに最適です。
お役立て下さい。

問題 1 「？」に入る平仮名は何？

糸 ＝ ○
井 ＝ と○
囲 ＝ ？○

問題 2 並べ替えて別の言葉にしてください

んーなまはげ

〈ヒント〉問題① 同じ何かが合体しています。問題② これはノーヒントで

Special thanks to (N)

はなしのたね vol.1の答え

問題1 しまうま
（上からトマト、しんぶんし、ふうふ）

問題2 ない
（後ろに「ある」「ない」をそれぞれつける）